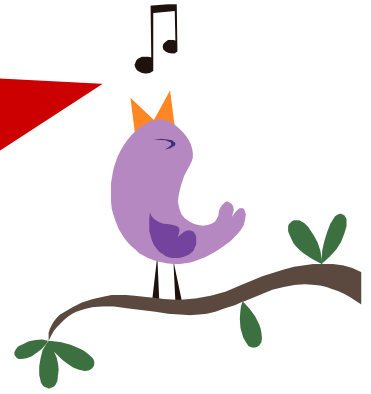


ふらり らいふらりい



～図書室にはこんな本があります～

No. 166

★利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。
(書名の後の()の数字は請求記号です。)

問) 百田尚樹のベストセラー小説『海賊と呼ばれた男(上・下)』(913/H99 開架) について、主人公のモデル、出光佐三に関する資料はあるか。

答) 「出光佐三」をキーワードとして、**ことば**で検索します。

全資料 → **ことば** → **出光 佐三** (32件該当)

『昭和人物エピソード事典』(281/So15 開架)

『「出光五十年史」』(C575/I19 閉架)

出光佐三氏の著書や当時の寄稿掲載誌・講演を掲載した雑誌もあります。

図書『青年よ、明治精神に帰れ』(509/I19 閉架)

『マルクスが日本に生まれていたら』(309/I19 閉架)

雑誌『社会政策時報 第1期 合本9(昭和11年8月～13年5月)』(364/Sh12/9 閉架)

『産業と防衛 第2巻第6号 = 第11号(昭和34年6月)』(390/Sa63/2-6 閉架)

※出光佐三(明治18年－昭和56年)実業家。明治44年(1911年)門司で石油販売の出光商會を創立、昭和15年(1940年)出光興産を設立し、社長。敗戦で海外資産をうしなうが、大型タンカーの建造、精油所の建設などをすすめ、原油の輸入から精製、販売まで一貫する民族系石油会社をきずきあげた。 参考:『講談社日本人名大辞典』(R281/Ko19 閉架)

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。
検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。
操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。



空襲下の急病の応急手当



冬から春へ。気温もぐっと上がり暖かくなりましたが、季節の変わり目は体調を崩しがちです。69年前の昭和20年4月、戦況は悪化し、空襲もますます頻繁になってきていました。体調を崩しても薬がなかなか手に入らず、すぐ病院にも行けなかった状況でどのように応急手当していたのでしょうか。今回は、昭和20年4月の『主婦之友』の記事「空襲下の急病の応急手当」を紹介します。

〈風邪の早期手当〉

夜間、待避壕から出たときなど、ゾクゾクと悪寒がし、熱の出るような傾向があったら、すぐに橙湯か生姜湯、または梅干湯をコップ二杯ほど飲んで、焼瓦（四五寸角の瓦の破片の両面を新聞紙が焦げるほど焼いてこれに包む。）を布に包み、首筋から背中に押し込んで蒲団をたくさんかけ、グッショリ汗をかくほど温かにして休みます。なお寒ければ足に湯たんぽを入れなさい。ひどく汗さえ出たら、風邪は必ず喰い止められています。アスピリンも結構ですが、なかなか手に入らないし、また飲んだところで汗を出さない限り熱はまた昇ります。

〈咳を喰い止める方法〉

咳は多くの場合咽喉から始まって、だんだんと気管支の方へ進行してゆくのですから、出始めたとき、すぐに芋湿布を作って首に巻くと、進行を喰い止め、それきり止まってしまう。芋がなければ湯の湿布でもよろしい。

『主婦之友 29巻4号』（051/Sh99/29-4）から引用しました。旧漢字、旧かなづかいは改めました。）

—図書室から—

特別企画展のお知らせ

3階にて、5月11日まで「夢と希望と困難と ～昭和の働く女性～」を開催しています。どうぞご見学下さい。

ぶらりらいぶらりい ～図書室にはこんな本があります～ NO. 166

2014年4月20日 発行/ 編集・発行 昭和館 図書室 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1